

● リストの見方

著者『図書タイトル』（出版社、文庫・新書名）

所在 & 請求記号

教員からのコメント

● 学んで、知って、考える——「教養」って何？

安西祐一郎『心と脳——認知科学入門』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 141.51/A

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/1331

すずかけ台：2F-一般図書 141.51/A

人間が何かを感じたり、考えたり等、「心」はどのようにはたらき、「心」は「脳」からどのようにして生まれるのか？ 「心」と「脳」の働きについて理解する研究分野である「認知科学」の考え方と方法、これまでに得られた知見について紹介しています。

池上彰『池上彰の教養のススメ 東京工業大学リベラルアーツセンター篇』（日経 BP 社）

大岡山：B1F-一般図書 002/I

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 002/I

すずかけ台：2F-「東工大先生の本」文庫 002/I

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 002/I

池上彰さんが東工大リベラルアーツセンターの教授に着任したのが2012年のこと。この本はそれ以後のシンポジウムでの討論や、東工大の名物教授たちとの対談などが収められている。なぜ理工系の大学なのに「教養」が必要なのか。東工大生の素晴らしい点と弱点は何なのか？ ハーバード、MITなどの教養教育も紹介されている。「最先端のことだけを学んでも5年も経てば古びて使い物にならなくなってしまいます。その時にさらに前に進むためには、文学や哲学、宗教といった何百年も古びない学問こそ大学の時に学んでおくべきなのです」というMITの教授の発言にはインパクトがある。対談形式で書かれているので、とても読みやすい本だ。

市川伸一『考えることの科学——推論の認知心理学への招待』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 141/I

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/1345

すずかけ台：2F-一般図書 141/I

人間がどのように思考し推論するか、その考え方にどのような特性があり、どのような心の中のモデルを用いて行われているのか、について認知心理学の視点から説明しています。

稲垣佳世子、波多野誼余夫『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 141.3/I

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/907

すずかけ台：2F-一般図書 141.3/I

人が学ぶとは、生得的な認知制約と、文化的な認知制約を受けながら、外部から伝達される知識を内的制約と照らし合わせつつ再構築していることや、学習者同士が影響し合うことなど、「学び」について多角的に解説している一冊です。

梅棹忠夫『情報の文明学』（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 007.3/U

すずかけ台：2F-一般図書 007.3/U

皆さんは、高校の情報科で何を学びましたか？ 情報を使いこなす上で大事なものは何か、技術的な理解を深めることと、情報の意味や価値、社会的影響を理解することと、どちらが重要なのかを考えるきっかけになればと思います。

岡潔、小林秀雄『人間の建設』（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 404/Ko（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Ko/13（小林秀雄全集）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Ko/s1（小林秀雄全集）

すずかけ台：2F-一般図書 404/Ko

昭和を代表する文芸批評家と数学者による極めて示唆に富む創造的対話集。人間の精神的営為に関して縦横無尽に語り合い、その本質を見事に浮き彫りにする。感性や情緒が、知性や論理に優先・優越し、それらの根源になるという両者の基本認識は、現在の表層的な文理の差異を超越しうる普遍的世界観として、これまで以上に重要である。

隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』（星海社新書）

大岡山：B1F-一般図書 002/O

すずかけ台：2F-一般図書 002/O

自分は理系であると自負している人が多いでしょう。何かにつけて「理系だから」と誇ったり弁解したりする前に、理系と文系という枠組みがどのように生じたのか考えてみませんか。両者の違いを知ること、対話のきっかけが生まれるかもしれません。両者の起源を知ること、理系と文系という枠組みが消えた先の未来を考えるヒントが得られるかもしれません。



サルマン・カーン『世界はひとつの教室——「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション』（ダイヤモンド社）

大岡山：B1F-一般図書 379.7/Kh

すずかけ台：2F-一般図書 379.7/Kh

The one world schoolhouse: Education Reimagined の翻訳書です。いとこのための家庭教師から始めて、Khan academy というオンライン上の教育プラットフォームを立ち上げる過程の筆者の取り組みを知り、学びとは何か、テクノロジーが教育をどう変えうるのか、学校教育のシステムはどうあるべきか、考えてみよう。

川喜田二郎『発想法——創造性開発のために』（中公新書）

大岡山：B1F-一般図書 301/Ka/1

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ty/136

すずかけ台：2F-一般図書 301/Ka/1

現在は「KJ 法」と呼ばれている研究方法について文化人類学が専門で東工大の教員だった著者が書いたものです。第1章は科学論になっていて、科学を「実験科学」「書斎科学」「野外科学」の3つに分けて「野外科学」の進め方を説いています。続編もあります。

佐藤学『教師たちの挑戦：授業を創る学びが変わる』（小学館）

大岡山：B1F-一般図書 375.1/Sa

すずかけ台：2F-一般図書 375.1/Sa

子供たちが学び合う教室の風景。21世紀の世界で起きている授業の「静かな」革命。本書は、その具体的な姿を描き出す。初版は2003年。

佐伯胖『「わかり方」の探究——思索と行動の原点』（小学館）

大岡山：B1F-一般図書 370.4/Sa

すずかけ台：2F-一般図書 370.4/Sa

本書では「わかる」ということがどういうことかを認知科学的視点から平易に追求されています。本書は、「教育」を行う上で「わかる」という現象を取り上げているが、本書を読むことで、「学ぶ」上で大切なことは何であるかを知ることができると思います。

柴田義松『ヴィゴツキー入門』子どもの未来社（寺子屋新書）

大岡山：B1F-一般図書 140.2/Si

すずかけ台：2F-一般図書 140.2/Si

「アクティブラーニング」の本質は、学ぶ力をつけることであり、そのためには、学びそのものについて理解することが近道です。本書では、議論する力、そのベースとしての言語力の重要性についても考える機会が得られるでしょう。

藤田英典『教育改革：共生時代の学校づくり』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 373.1/H

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/511

すずかけ台：2F-一般図書 373.1/H

20年前の「教育改革」は、私たちの教育の土台を作り出している。本書を手に、学校教育の意義と課題を、確かな眼差しで見つめ直そう。初版は1997年。

ジョン・デューイ『学校と社会』（講談社学術文庫、岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 371.253/D

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Iz/88

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 371.253/D

すずかけ台：2F-一般図書 371.253/D

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 371.253/D

教育学の見果てぬ夢。前世紀の幕開けに、アメリカを代表する哲学者は、民主的な社会の建設を、何よりもまず教育に託した。原著の初版は1900年。

C・H・ハスキンス『大学の起源』青木靖三、三浦常司訳（八坂書房）

大岡山：B1F-一般図書 377.23/H

すずかけ台：2F-一般図書 377.23/H

大学があるのは当たり前のことではない。かつては大学など存在しない時代があり、学ぶ意欲を持った学生たちが集まって組合（ユニヴァーシティー）を作った。学生組合は、教師たちに授業料に相応しい講義をさせるための武器となり、町の人々から経済的不利益を被らないようにするための盾となった。まるで千年近く昔にタイムスリップしたかのように、当時の学生たちの様子が生き生きと伝わってくる本である。

ヴィクトール・E・フランク『それでも人生にイエスと言う』山田邦男・松田美佳訳（春秋社）

大岡山：B1F-一般図書 146.8/F

すずかけ台：2F-一般図書 146.8/F

『夜と霧』の著者として有名なフランクが、ナチスの強制収容所から解放された翌年に行った講演を収めた本であるため、フランクからの語りかけを感じながら読み進められることでしょう。「生きる意味とは?」。この問いをもった人はぜひ読んでみて下さい。これから生きていく中で繰り返し読みたくなる本となるはずです。



夏目漱石『三四郎』（岩波文庫、新潮文庫、角川文庫など）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/N（岩波文庫・新潮文庫・角川文庫）

大岡山：B1F-一般図書 918/I/13（日本文学全集）

大岡山：B1F-一般図書 918/N/8（日本文学全集カラー版）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/Si/3（新潮日本文学）

大岡山：B1F-一般図書 918.68/N/7（漱石文学作品集）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W000515（日本の文学）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W007363（漱石全集）

すずかけ台：2F-一般図書 913.6/N（岩波文庫）

いまさらと感ずるかも知れないが、未読の人はさっそく、既読の人は再度通読して欲しい。明治時代の学生と今の学生はどこが同じでどこが違うのか。大学で学ぶとはなにかなど、新鮮に感じるのではないだろうか。ところで、三四郎が最初に出会ったとき広田先生はなんで水蜜桃を食べているのだろうか？ 私は読み返すたびに不思議になる。馬鹿みたいな味だからってほんとうかな？ それから、三四郎は大学を出たあとでどういう仕事に就くのだろう。

カイザー・ファンク『ヤバい統計学』矢羽野薫訳（CCCメディアハウス）

大岡山：B1F-一般図書 417/F

すずかけ台：2F-一般図書 417/F

多くの本は「統計学は嘘をつく」と言う。しかし、それでは統計学やデータ分析はどこで使われているのだろうか。この本はそれを教えてくれる。「ヤバい」というタイトルに反して内容は非常に堅実で、統計学をポジティブに評価する一冊である。

J・L・ボルヘス『七つの夜』（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 964/B

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ie/792

すずかけ台：2F-一般図書 964/B

いつでもくり返し目をみはり耳を澄ますために、私たちは知識を求め、固定しそうな像をゆさぶる。深く広く知ることは精神が身軽になることだと教えてくれる講演集。テーマは夢、詩、仏教など一夜毎に自由に広がる。



ダレル・ハフ『統計でウソをつく法——数式を使わない統計学入門』高木秀玄訳（講談社ブルーバックス）

大岡山：B1F-一般図書 350.1/H

大岡山：B1F-一般図書 408/B/120

すずかけ台：2F-一般図書 350.1/H

すずかけ台：2F-一般図書 408/B/120

欲しい情報は簡単に得られても、その情報を正しく読み解く力がなければ、宝の持ち腐れです。高校数学でもデータ分析を学びますが、単なる計算法を知っていることと、正しくデータを読むこととの違いを考えてみましょう。

山岸俊男『心でっかちな日本人——集団主義文化という幻想』（ちくま文庫）

大岡山：B1F-一般図書 361.42/Y

すずかけ台：2F-一般図書 361.42/Y

社会心理学者である著者が、自身の専門領域のみならず、経済学、認知科学、文化人類学といった幅広い学問領域の知見も援用しつつ、「日本人は集団主義的である」「いじめがなくなるのは心の問題」といった通説を、実験結果によって次々と覆していく。学問は、世界の見え方を変える力を持っていることを体感してほしい。

山本博文『歴史をつかむ技法』（新潮新書）

大岡山：B1F-一般図書 210/Y

すずかけ台：2F-一般図書 210/Y

歴史は、小・中・高校で、ひたすら用語を暗記させられたために、嫌いな科目になってしまった方も多いのでは？「知識偏重」からまだまだ抜け出せない学校教育の現状や、ポイントを押さえた日本史の流れ、歴史を学ぶ上で必要な「考え方」「見方」を知れば、その思いは変わってくると思います。大学で、歴史学ともう一度向き合うとき、一番初めに読んでほしい本です。



● 歴史と人物——「人間」って何？

石牟礼道子『苦海浄土』（講談社文庫など）

大岡山：B1F-一般図書 908/Se/28（世界文学全集）

大岡山：B1F-一般図書 916/I

大岡山：B1F-一般図書 916/I（講談社文庫）

大岡山：B1F-一般図書 918.68/I/2（石牟礼道子全集）

すずかけ台：2F-一般図書 493.152/I

文学のあらゆるジャンルを総括してもなお、現代日本屈指の作品である。水俣病に苦しむ人々の姿を描き出したこの作品を、どんなおもいで書き続けたのか、と石牟礼さんに聞いたことがある。詩のつもりで書いたと語ったあと、彼女はこう言った。「闘いのつもり。一人で闘うつもりでした。」人は、独りでも大きな何かを戦い得ることを示した人生の書。

上田紀行『人間らしさ——文明、宗教、科学から考える』（角川新書）

大岡山：B1F-一般図書 114/U

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 114/U

すずかけ台：2F-「東工大先生の本」文庫 114/U

この本は東工大と慶應大学の合同ゼミで2年連続して慶應の女子学生から「東工大生は人間味がない」「こんなに人間に興味がない人たちとは驚いた」と指摘されたというイタい話から始まっている。東工大生は他の人たちからどのように見られがちなのか。ぜひその部分だけでも読んでほしい。しかしいったい「人間らしさ」とは何だろうか。この本では生殖医学などの先端科学、現代社会のシステム化、そして宗教にも触れながら論じられていくが、それを読みながら私たちは人間なのに「人間らしさ」について真正面から考えてこなかったことに気づかされるだろう。そして最後には皆さんがこれから体験していく東工大の新しいリベラルアーツ教育のねらいと展望にも触れられている。

カズオ・イシグロ『日の名残り』土屋政雄訳（ハヤカワepi文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933/I

大岡山：B1F-一般図書 933.7/I（ハヤカワepi文庫）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933.7/I（ハヤカワepi文庫）

イシグロは、5歳のときに長崎からイギリスへ移住した日系英国人。2017年、ノーベル文学賞を受賞した。本作は、イギリスの貴族の屋敷に仕えるきまじめな執事を主人公とする物語。いっけん過剰なまでに英国的な小説に思えるものの、イシグロはむしろこうした見方を否定する。現代における作家の越境について、あるいは物語の普遍性について、思いを巡らせてみるのもよいだろう。記憶のなかの日本を描く作品群もおすすめ。



桜井英治『贈与の歴史学 儀礼と経済のあいだ』(中公新書)

大岡山 : B1F-一般図書 332.104/Sa

大岡山 : B1F-文庫・新書 081/Ty/2139

すずかけ台 : 2F-一般図書 332.104/Sa

本書を「贈与」の情緒的な側面ばかりイメージして読み進めると、日本の中世の人々のドライで功利的な姿に驚かされ、現代人の「常識」は破壊されることとなります。「過去が現在よりもつねに素朴だと思うのは、過去にたいする見くびりであり、現代人の傲慢である」ことに気付かされるでしょう。

塩野七生『すべての道はローマに通ず——ローマ人の物語 X』(新潮社)

大岡山 : B1F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2 (新潮文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 232/Si/10

すずかけ台 : 2F-一般図書 232/Si/1, 232/Si/2 (新潮文庫)

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 和書 232/Si/10

1992年から2006年までかけて刊行された連作のうちの一冊である。シリーズの他の巻とは異なる構成を採用し、街道、水道、医療、教育といったインフラストラクチャーをとりあげてローマ人というあり方を通観する。文庫版『ローマ人の物語』では<27>と<28>が該当するほか電子書籍としても入手できる。

高橋治『絢爛たる影絵 小津安二郎』(岩波現代文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 778.21/Ta

すずかけ台 : 2F-一般図書 778.21/Ta

小説家として名を成した著者だが、大学卒業後は映画監督を志し、小津安二郎監督の『東京物語』の助監督を務めてもいる。表題作は彼の目から見た小津監督の評伝。併録の「幻のシンガポール」もぜひ読んでほしい。国家の要請と芸術家の良心とのせめぎ合いがリアルに描かれている。

アントニオ・タブッキ『供述によるとペレイラは…』須賀敦子訳(白水Uブックス)

大岡山 : B1F-一般図書 973/Ta

大岡山 : B1F-文庫・新書 081/H/134

すずかけ台 : 2F-一般図書 973/Ta

この作品の舞台はファシスト戦時下のポルトガル。主人公は冴えない新聞記者のペレイラである。供述として綴られる彼の物語では、表現の自由と抑圧的な社会とのはざままで現実から逃避するように日々筆を走らせているこの人物が、若者たちとの出会いによって静かな抵抗に目覚める過程が、ときに幻想的な世界観とともに描かれている。政治的に重い主題を扱いながらも、どこか軽快なタブッキの筆遣いは、エーコやカルヴィーノと並んで、現代イタリア文学の代名詞にふさわしい。タブッキが気に入った人には、アルゼンチンの巨匠のコルタサルやボルヘスもおすすめ。

陳舜臣『日本人と中国人——「同文同種」と思い込む危険』（祥伝社新書）

大岡山：B1F-一般図書 361.42/Ti

すずかけ台：2F-一般図書 361.42/Ti

中国を知ると同時に日本理解の手助けにもなる名著の復刻版。著者は『諸葛孔明』『阿片戦争』など中国歴史小説の名作を多く世に出した歴史作家です。初版が出たのは1971年と古いですが、時事ネタを避け、歴史や古典に即して日本人と中国人の違いを根本的に、かつ分かりやすく分析した内容は今でも参考になります。

フランツ・カフカ『変身』高橋義孝訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）

大岡山：B1F-一般図書 908/Sy/12（世界の文学）

大岡山：B1F-一般図書 943/Ka（ドイツの名作）

大岡山：B1F-一般図書 943.7/Ka（新潮文庫・集英社文庫）

大岡山：B1F-一般図書 948/Ka/1（カフカ全集）

大岡山：B1F-一般図書 948/Ka/A3（カフカ全集）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ie/438（岩波文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Kod/Ka（光文社古典新訳文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/H/152（白水Uブックス）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka（新潮文庫）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W004758（現代世界文学全集）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W023112（ドイツの文学）

大岡山：B1F-集密：一般図書 W026075（世界文学全集）

すずかけ台：2F-一般図書 908/Ka/20（河出世界文学全集）

すずかけ台：2F-一般図書 908/Ti/A65（筑摩世界文学大系）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 943.7/Ka（新潮文庫）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 943.7/Ka（光文社古典新訳文庫）

カフカは日本では名前だけがやたらと有名になってしまったが、じっさいにこの作品を先入観抜きに読めば、不条理だとか、悪夢的だとか、ユダヤ人の悲劇、アウシュビッツを予見したなどという定説がいかにか的を外れであるかを知ることになる。「変身」に限らずカフカの作品は、躍動感と生への肯定、笑いに満ち満ちている。



砺波 護『馮道——乱世の宰相』(中公文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 289.2/To ※6月から貸出可になります

中国で初めて中央集権体制が確立し、それ以降は諸国家の分裂や王朝の目まぐるしい変遷が絶無となったのは、10世紀は宋(北宋)の成立によるものである。その直前に中国史上で最もマイナーと言われる五代十国時代という変革期があった。その時代に五朝八姓十一君に仕え、文人として剛直、官吏として柔軟という矛盾を貫くことで生き抜いた政治家の評伝である。中国の歴史には西洋の中世に相当するものが存在せず、乱世にあってこそマイナーだが超越的な人間像(曹操、苻堅、そしてこの馮道)を通じ、時折、近代性の幻影が垣間見られる、その深い理由を考えさせる好著である。

原武史『「鉄学」概論——車窓から眺める日本近現代史』(新潮文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 686.21/H ※6月から貸出可になります

鉄道を通して、日本社会の構造や日本人の意識を解明していく本。鉄分少なめの諸君は奥深き鉄道の世界の入り口に。鉄分多めの諸君は日本の近代についても語れるデキる大学生になるための指南書として。

藤原辰史『稲の大東亜共栄圏——帝国日本の〈緑の革命〉』(吉川弘文館)

大岡山 : B1F-一般図書 612.2/H

すずかけ台 : 2F-一般図書 612.2/H

近年技術革新が目覚ましい遺伝子組み換え産業。だがそれと並行して種子の市場での多国籍大企業による市場独占も進んでいる。遺伝子組み換えに伴う諸問題は、これまでの品種改良の問題と切り離せないことを著者は説得的に論じている。食物連鎖を支配することは、人を支配することでもある。『ナチス・ドイツの有機農業』の著者が、20世紀初頭の日本の植民地政策と稲の品種改良の歴史との関係に鋭く切り込んだ好著。

ヴィクトール・E・フランク『夜と霧』池田香代子訳(みすず書房)

大岡山 : B1F-一般図書 146.8/F/1 (フランク著作集)

大岡山 : B1F-一般図書 946/F

大岡山 : B1F-リベラルアーツ資料 946/F

すずかけ台 : 2F-リベラルアーツ資料 946/F

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 和書 946/F

重いテーマですが、読んだ人は一生忘れないでしょう。強制収容所記というより、「人間」そのものを考えさせる哲学的な書という点で、「教養」の名にふさわしい本だと思います。〈わたしたちは、おそらくこれまでのどの時代の人間も知らなかった「人間」を知った。では、この人間とはなにものか。人間とは、なにかをつねに決定する存在だ。人間とは、ガス室を発明した存在だ。しかし同時に、ガス室に入っても毅然として祈りのことばを口にしている存在でもあるのだ〉



ウィリアム・H・マクニール『疫病と世界史』上・下巻、佐々木昭夫訳（中公文庫）

大岡山：B1F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2

すずかけ台：2F-一般図書 493.8/M/1, 493.8/M/2

歴史を動かす究極的な力(要因)は何なのか。神の摂理？ 超越的な人間の能力？ 技術力の発展に伴う経済構造の変化？ 単なる偶然と運がすべて？ それとも複合的原因による多重的決定？ いやいや、それを前にしては免疫を持たぬ人間など全く無力な、未知の(あるいは既に抑止できたと思われていた)感染症・疫病!の力を忘れてはならない。中世の黒死病(ペスト)がなかったら、我々は現在、我々の知る世界とは全く違った世界を眼にしていたであろう。ホーキングが敢えて「絶対に人類は未知との遭遇をしてはならない」という理由もそこにある。我々の運命は、愚か者の手中などではなく、知られざるウイルスに握られているのかもしれない。同時に「同じ意味で」ジョン・W・キャンベルの『影が行く』も必読書である。

ジョン・スチュアート・ミル『自由論』 齊藤悦則訳（光文社古典新訳文庫）

大岡山：B1-一般図書 080/Se/I38（世界の名著）

大岡山：B1-一般図書 133.4/M（光文社古典新訳文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Id/116（岩波文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Koc/M（光文社古典新訳文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 133.4/M（光文社古典新訳文庫・岩波文庫）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 133.4/M（光文社古典新訳文庫・岩波文庫）

学生の時、中央公論社の「世界の名著」シリーズで読んだのですが、こちらは少し入手しにくいようです。岩波文庫からも出ていますが、読みやすさの観点から、光文社古典新訳文庫版を推薦します。

スタンレー・ミルグラム『服従の心理』(Obedience to Authority: An Experimental View) 山形浩生訳（河出文庫）

大岡山：B1F-一般図書 361.43/M

すずかけ台：2F-一般図書 361.43/M

「服従の本質というのは、人が自分を別の人間の願望実行の道具として考えるようになり、従って自分の行動に責任をとらなくていいと考えるようになる点である」(序文より)。本書は、1960年からスタンレー・ミルグラム博士によって3年間に渡って実施された、服従に関する心理実験、通称「アイヒマン実験」の報告書である。人は誰であっても、特定の役割を与えられ、観察者による指示を受け、その行為に理由付けがなされた場合、際限なく残酷に他者を処罰するようになってしまっているのではないか。記憶テストで単純なミスをした者に電撃を加えるようにと言われた被験者は、いとも簡単に指示に従ってしまう。この本と同時に、ミルグラム博士の半生を描いた『アイヒマンの後継者 ミルグラム博士の恐るべき告発』(The Experimenter, 2015)も薦めたい。博士の服従実験の様子と彼の考察が、豊かな映画的表現とともに生き生きと活写されている。

ダニエル・カーネマン『ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるか?』村井章子訳（早川書房）

大岡山：B1F-一般図書 141.5/Ka/1,141.5/Ka/2

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 141.5/Ka/1,141.5/Ka/2

2002年にノーベル経済学賞を受賞した心理学者カーネマンの著書である。本書では、私たちの意思決定過程に係わる様々な心理的要因が取り上げられており、いかに私たちが無意識的な心理プロセスに気づいていないかを気づかせてくれる。多くの実験内容が具体的に例示されているので、体験を通じて、「人間」について新たな視点をもつ機会を提供してくれる。

李御寧『「縮み」志向の日本人』（講談社学術文庫）

大岡山：B1F-一般図書 361.5/I

すずかけ台：2F-一般図書 361.5/I

日本を欧米と比べるのではなく、共通性の多いアジアの中で比較したほうが日本文化の特質がよく分かるという視点から出発した、韓国人学者が書いた日本人論の名著。折詰弁当、扇子、俳句から現代のロボットやパチンコまで、身近な材料から本質に迫る著者の感性と分析力が見事です。



● 世界を知る、社会を変える——「現代」って何？

池上彰、上田紀行、中島岳志、弓山達也『平成論「生きづらさ」の30年を考える』（NHK出版新書）

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 210.77/H

すずかけ台：2F-「東工大先生の本」文庫 210.77/H

皆さんは自分が生まれ、育ってきた「平成」という時代がどんな時代か知っていますか？人間は社会によって作られるとすれば、自分がどこまで時代の影響を受けているのかを知ることは必須でしょう。この本では「生きづらさ」をキーワードに平成という時代を読み解いています。「昭和」の影響下で育った皆さんのご両親や先生達との違いを知るヒントにもなることでしょうか。東工大リベラルアーツ研究教育院の4人の教員の共著ということで、1冊で4人の視点を知ることができるお得な本でもあります。

宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 685.1/U

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/890

すずかけ台：2F-一般図書 685.1/U

現代社会に不可欠な自動車の普及がもたらす問題について経済学的、法政策的な議論を知ることができる。

北村英哉、唐沢譲 編『偏見や差別はなぜ起こる？』（ちとせプレス）

大岡山：B1-一般図書 361.4/Ki

すずかけ台：2F-一般図書 361.4/Ki

社会心理学の知見から偏見や差別が生じるメカニズムについて解説しています。また、それが人種、民族、障害、ジェンダーなどの集団・社会カテゴリーのなかでどのような問題になっているのか、例題をもって示しています。

後藤健二『ダイヤモンドより平和がほしい——子ども兵士ムリアの告白』（汐文社）

大岡山：B1F-一般図書 319.8/G

すずかけ台：2F-一般図書 319.8/G

小中学生でも読めるような平易な文章、大きな文字で書かれていて、だれにでも分かるように丁寧に書く・伝えるということの大切さに気づかされます。意に反して子ども兵にされた少年との対話を通して、そして子ども兵の被害に遭った人々の記憶を通して、忘れることができない記憶に向き合う姿が胸に迫ります。世界の現状について考えるきっかけに。



田尻宗昭記念基金『なにやっぺんだ行動しよう』(アットワークス)

大岡山 : B1F-一般図書 519/Ta

すずかけ台 : 2F--一般図書 519/Ta

法制度の枠組みを最大限活用して四日市公害の摘発に尽力した田尻宗昭氏。その記念基金を受賞した様々な市民活動が有名な公共訴訟の基にあることを知ることができる。

シリル・ネザマフィ『白い紙/サラム』(文藝春秋)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/N ※6月から貸出可になります

イラン出身で母語はペルシャ語の筆者が日本語で書いた小説で、イラン・イラク戦争下の恋が描かれています。神戸大学、同大学院で情報知能工学を学び、在学中の2006年に「留学生文学賞」を受賞、大手電気メーカーでシステム・エンジニアとして勤務という著者のプロフィールも、留学生に限らず東大のみなさんに関心を持ってもらうきっかけになるかもしれません。

チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジヨン』斎藤真理子訳(筑摩書房)

大岡山 : B1F-一般図書 929.1/C

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 和書 929.1/C

ベストセラーになった韓国のフェミニズム小説で、日本にも通じるジェンダー課題を面白いストーリーで読ませる内容です。

ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール——正義なき民主主義と国際社会』鈴木主税訳(集英社新書)

大岡山 : B1F-一般図書 361.4/C

すずかけ台 : 2F--一般図書 361.4/C

2003年に出版された本ですが、その主張は今でも古びていません。著者は、生成文法理論を提唱する言語学者。本書を読んで、与えられた情報を鵜呑みにせず、自分の頭で考えることの大切さについて考えてみてください。

長谷部恭男『Interactive 憲法 続』(有斐閣)

大岡山 : B1F-一般図書 323.14/H/2

すずかけ台 : 2F-一般図書 323.14/H/2

高名な憲法学者による憲法の理念のエッセンスを多角的に取り上げ、人権の保障、法の支配の重要性を知ることができる。

原田正純『水俣病』(岩波新書)

大岡山 : B1F-一般図書 493.152/H

大岡山 : B1F-文庫・新書 081/Ib/841

すずかけ台 : 2F-一般図書 493.152/H

社会に大きな影響を与えた公害病である水俣病についてその原因追究の過程、企業の利潤追求や行政の姿勢、患者のおかれた立場などについて患者の側にたって水俣病を告発していた医師が記したものの。

牧野淳一郎『原発事故と科学的方法』(岩波書店)

大岡山 : B1F-一般図書 408/I/216

大岡山 : B1F-一般図書 543.5/M

すずかけ台 : 2F-一般図書 543.5/M

福島第一原子力発電所の事故直後から公式情報にも混乱がある中、事故の規模や放射性物質の状況を高い精度で見通し、情報発信を行う科学者が東工大にいた。原発や放射性物質の専門家ではない彼が高校生にも理解可能な科学知識を用いて、どのようにそれを成し遂げたかの記録であり、改めて原発の問題を振り返るきっかけとなる。

山浦善樹『お気の毒な弁護士』(弘文堂)

大岡山 : B1F-一般図書 327.14/Y

すずかけ台 : 2F-一般図書 327.14/Y

元最高裁判事の半生を法学者がインタビューして書籍にまとめたものです。マチ弁(街の弁護士)と呼ばれる、民事事件を扱い、庶民の悩みに対応する職務に従事する方の視点。

ムハマド・ユヌス『貧困のない世界を創る——ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』猪熊弘子訳(早川書房)

大岡山 : B1F-一般図書 335.8/Y

すずかけ台 : 2F-一般図書 335.8/Y

Muhammad Yunus with Karl Weber, *Creating a World without Poverty: Social Business and the Future of Capitalism*, New York, Public Affairs, 2007.

著者は2006年にノーベル平和賞を受賞した。彼が創立したグラミン銀行は貧困層を対象にグループ単位でお金を貸している。そのおかげで起業して会社を大きくすることもでき、子供を学校に通わせられるようになり、彼らは貧困を抜け出すことができる。社会に良い企業とは何か、成功の意味を広げる経済学者のベストセラー。



Yousafzai, Malala, *I Am Malala: The Girl Who Stood Up for Education and Was Shot by the Taliban*. Co-written by Christina Lamb. New York: Little, Brown, 2013

大岡山 : B1F-一般図書 289.2/Y

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 洋書 289.2/Y

An inspirational autobiography by a brave young girl from the Swat Valley of Pakistan, raised by a loving mother and a father who instilled in her a love for learning, with a clear message: Give girls an education. Malala's outspokenness and her BBC blog nearly cost her life—shot in the head by a Taliban on her way home from school. Yet, her survival gives us hope as we see nations unite, providing her with medical treatment and a more prominent and audible platform at The United Nations for her activities. Malala, the youngest Nobel Peace Prize winner, shows us how one individual can change the world by becoming a voice for those who cannot speak.

スティーブン・レビット、ステファン・ダブナー『ヤバい経済学』望月衛訳（東洋経済新報社）

大岡山 : B1F-一般図書 331.04/L

すずかけ台 : 2F-一般図書 331.04/L

計量経済学者スティーブン・レビットが解き明かす社会の裏側は、とても刺激的だ。アメリカの犯罪を減らしたのは、警察の戦略ではなく意外な政策だった。学校の先生はズルをする、日本の力士と同じように。データが明らかにするのは反直感的な事実だ。



● 科学と技術——「自然」って何？

稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる——生き物をめぐる個性の秘密』（ちくまプリマー新書）

大岡山：B1F-一般図書 467.5/I

すずかけ台：2F-一般図書 467.5/I

本書では、個性や多様性について生物学の見地から分かりやすく説明しています。「弱い」ことは成功の条件であるかのようにと著者は述べます。もし、あなたが「弱さ」に関心があれば、本が好きな人もそうでない人も最後まで本書を楽しく読めるはずですよ。

宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 685.1/U

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/890

すずかけ台：2F-一般図書 685.1/U

自動車を使用することは、たんに「私的な資源の利用」（自動車購入費、ガソリン代）ではなく、必ず道路という社会的資源の使用にもかかわることだ。それはより広くは都市環境の問題にも直結する。自動車が歩行者の権利を侵害しているという視点から、自動車運転を取り囲む経済構造とその諸問題を捉えた、日本を代表する数理経済学者による刺激的な論考。これとは別に、「自動車に乗る」経験が人間と風景との接し方を変えるという論点に興味がある方は、M. フェザーストン/N. スリフト /J. アーリー編著『自動車と移動の社会学』（近森高明訳、法政大学出版局）を参照のこと。

斎藤憲『アルキメデス『方法』の謎を解く』（岩波科学ライブラリー）

大岡山：B1F-一般図書 408/I/232

すずかけ台：2F-一般図書 408/I/232

アルキメデスは数学者か技術者か。謎に包まれた『方法』という著作を紐解くことで、純粋に数学的な問題に機械学的な概念を持ち込んだアルキメデスの創意が明らかになる。ちなみに、『リーダーの教養書』等のブックガイドでは、同シリーズの『ユークリッド『原論』とは何か』が推薦されている。しかし、著者の斎藤憲氏曰く「東工大生に読んで欲しい最初の一冊は、技術についても学べるアルキメデスのほう！」とのこと。

スティーヴン・グールド『人間の測りまちがい』上・下巻、鈴木善次、森脇靖子訳（河出文庫）

大岡山：B1F-一般図書 141.1/G/1,141.1/G/2（河出文庫）

大岡山：B1F-一般図書 469/G

すずかけ台：2F-一般図書 141.1/G/1,141.1/G/2（河出文庫）

すずかけ台：2F-一般図書 469/G

100年前まで行われていた、人間を差別するための意図を持った科学を検証している。専門的記述が多少みられるものの、理解は容易であろう。科学的知識が社会で果たす役割・責任を感じる。



トーマス・クーン『科学革命の構造』中山茂訳（みすず書房）

大岡山：B1F-一般図書 402/Ku

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 402/Ku

すずかけ台：2F-一般図書 402/Ku

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 402/Ku

パラダイムという概念を最初に提唱された本です。今までの科学における発明がどのようにパラダイムシフトしてきたかを理論的に説明している本です。

柴田鉄治『科学事件』（岩波新書）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/663

すずかけ台：2F-一般図書 404/Si

臓器移植、薬害エイズ、クローン羊などの科学事件について、学会、行政、報道がどのように対応したかについて元新聞記者の立場から語られている。

ルース・シュウォーツ・コーワン『お母さんは忙しくなるばかり』高橋雄造訳（法政大学出版局）

大岡山：B1F-一般図書 590.2/C

すずかけ台：2F-一般図書 590.2/C

科学技術は人々の生活をよくするためにある。技術者なら、誰でもそう考えているはずだ。だが、家事を軽減するはずの家電が、20世紀、実は家事労働を増やしてしまった。もう主婦の時代ではないかも知れないけれど、技術と人間の関係を考えるのに本書は示唆に富んでいる。

竹村公太郎『日本史の謎は「地形」で解ける』（PHP文庫）

大岡山：B1F-一般図書 210/Ta/1

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 210/Ta/1

ブラタモリで「地形」がブームとなっている今、この本を読まずにブラタモリは語れない。この本を読むと「地形」がどのように日本の歴史に影響を与えてきたのか、また本当に「公共工事は悪」なのかを考えさせられる。「まだ訪れたことのない街に行くときにグーグルマップよりも地形図を開きたくない！」そんな一冊。同シリーズの【文明・文化篇】および【環境・民族篇】もお薦め。

武谷三男『安全性の考え方』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 519/Ta

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Ib/644

健康に関連するいくつかの事例の顛末等が記載され安全について考える材料になると思う。事例については新しいものではないが、現在の社会においても形を変えて起こりうる問題である。

中村桂子『科学者が人間であること』(岩波新書)

大岡山 : B1F-一般図書 404/N

大岡山 : B1F-文庫・新書 081/Id/1440

すずかけ台 : 2F-一般図書 081/Id/1440

生命科学・生命誌を専門とする著者が、東日本大震災以降、改めて問い直したこれからの科学と科学者としてのありよう。「人間は生きものであり、自然の中にある」という考えの基盤が、繰り返し語られる。

帚木蓬生『水神』上・下巻(新潮文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/H/1,913.6/H/2

すずかけ台 : 2F-一般図書 913.6/H/1,913.6/H/2

日本三大暴れ川・筑後川の治水工事を扱ったフィクション。九州には似たような実話も多い。農民の苦労や、治水に当たった庄屋(現代のリーダー)の苦労が、悠大な自然の描写と共に描かれている。

アンドリュー・パーカー『眼の誕生：カンブリア紀大進化の謎を解く』渡辺政隆、今西康子訳(草思社)

大岡山 : B1F-一般図書 457.8/P

すずかけ台 : 2F-一般図書 457.8/P

5億4000万年程前に生物種が爆発的に増加した謎を扱った古生物学の解説書。ストーリー展開や訳が自然で読みやすい。科学的知見の積み重なりが、人をワクワクさせると実感できる。

藤森照信『フジモリ式建築入門』(ちくまプリマー新書)

大岡山 : B1F-一般図書 520/H

すずかけ台 : 2F-一般図書 520/H

著者は、その土地の自然に溶け込みながらもどこかユーモアを感じさせる建物で知られる建築家。本書は、実用的な「人の住まい」と、美や壮麗さを表現するための「神の住まい」の二つに建築を分け、竪穴式住居から現代のLDK住宅まで、人類の建物をめぐる営みを考察する。



小島信夫『アメリカン・スクール』(新潮文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/Ko

大岡山 : B1F-一般図書 913.68/A/5 (芥川賞全集)

大岡山 : B1F-一般図書 918/N/52 (日本文学全集 : カラー版)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/H/25 (ふるさと文学館)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/G/C90 (現代日本文学大系)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/N/I38 (日本文学全集)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/Si/54 (新潮日本文学)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/Sy/21 (昭和文学全集)

すずかけ台 : 2F-一般図書 913.6/Ko

すずかけ台 : 2F-一般図書 913.68/A/5 (芥川賞全集)

小説とは、作者の意図やメッセージを投影する媒体ではなく、それが書かれることによって、結果的に作者の意図などを遥かに超えた「得体の知れなさ」として表出される芸術である、ということはこの作品集は示している。江藤淳と保坂和志の解説の対比も読む価値あり。

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』(岩波文庫、ちくま文庫、新潮文庫など)

大岡山 : B1F-一般図書 908.3/Se/B34 (世界 SF 全集)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/M (ちくま文庫 : 宮沢賢治全集)

大岡山 : B1F-一般図書 918.6/G/C27 (現代日本文学大系)

大岡山 : B1F-一般図書 918.68/M/12 (新修宮沢賢治全集)

大岡山 : B1F-一般図書 918.68/M/D9,918.68/M/D10 (校本宮澤賢治全集)

大岡山 : B1F-一般図書 913.8/M (岩波文庫)

大岡山 : B1F-文庫・新書 080/Ic/76 (岩波文庫)

大岡山 : B1F-リベラルアーツ資料 913.6/M (新潮文庫)

すずかけ台 : 2F-一般図書 918.6/M (ちくま文庫 : 宮沢賢治全集)

すずかけ台 : 2F-一般図書 913.8/M (岩波文庫)

すずかけ台 : 2F-リベラルアーツ資料 913.6/M (新潮文庫)

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 文庫・新書 913.6/M (岩波少年文庫・新潮文庫)

新潮版では削られているが、この鉄道の旅全体を実験とよぶ博士が登場する場面もおもしろい。各時代が真実とみなす宇宙像の違い、その変遷の歴史をたどりながら、では自分はどんな像を描き生きるのか。



吉田洋一『零の発見』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 410.2/Y

すずかけ台：2F-一般図書 410.2/Y

数学の生い立ちを分かりやすく説明している古典的名著。前半はアラビア数字のインドから欧州への伝搬を、後半はギリシャの数学を中心テーマとしている。無限、対数、連続、デデキントの切断から算盤など、話題も豊富。著者の吉田先生は、いまもときどき学内でお見かけする吉田夏彦・東工大名誉教授（科学哲学、論理学）のお父上で、本学とも縁が深い。

ジェームス・D・ワトソン『二重らせん』江上不二夫、中村桂子訳（講談社ブルーバックス）

大岡山：B1F-一般図書 408/B/1792（ブルーバックス）

大岡山：B1F-一般図書 464.27/W（講談社文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 464.27/W（ブルーバックス）

DNA の二重らせん構造を解明するまでの道のりを、当事者のワトソンが書いたもの。科学者が日々どのように考え感じて研究しているか、研究競争とはどんなものかよくわかる。描写の面白さから専門用語は気にならない。



● 聞いて、話して、物語る——「言葉」って何？

赤瀬川原平『新解さんの謎』(文春文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 914.6/A

すずかけ台 : 2F-一般図書 914.6/A

日本語の字引は世界の言語の中でもかなり異色だが、中でも『新明解国語辞典』(はぶっ飛びの例文がざくざく出てくる。たとえば「恋愛」の項で、「一組の男女が相互にひかれ、ほかの異性をさしおいて最高の存在としてとらえ、毎日会わないではいられなくなる」とある。これに限らず、そこまで書かなくてもと思う語釈が多い。読んでいて実に楽しい辞典が『新明解』である。その『新明解』のおもしろさを物語に仕立てあげたのが、この本なのだ。

飯間浩明『辞書を編む』(光文社新書)

大岡山 : B1F-一般図書 813.1/I

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 文庫・新書 813.1/I

『三省堂国語辞典』の「編纂者」である著者が、その仕事を語り尽くします。「はじめに」で、「やっている本人にとっては、これ以上おもしろい仕事はありません。スリルと発見に満ち、ものを生み出す喜びがあります。夢中になって打ちこめる仕事です。そのことがうまく伝われば、きっと読者にも楽しんでもらえるでしょう」と述べられていますが、まさにその通りの体験をすることになるでしょう。

ガブリエル・ガルシア=マルケス『百年の孤独』鼓直訳(新潮社)

大岡山 : B1F-一般図書 963/G

大岡山 : B1F-リベラルアーツ資料 963/G

すずかけ台 : 2F-リベラルアーツ資料 963/G

コロンビアのノーベル賞受賞作家による、マジックリアリズムの代表作。ガルシア=マルケスの大きな魅力のひとつは、その迫力にみちた見事な語り口にある。うねるような語りの流れに身を任せ、現実と幻想が渾然一体となった豊潤な世界を堪能してほしい。

木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書)

大岡山 : B1F-一般図書 407/Ki

大岡山 : B1F-文庫・新書 081/Ty/624

すずかけ台 : 2F-一般図書 407/Ki

とにかく早く読んでほしい一冊です。「目標規定文」、「重点先行主義」、「逆茂木型の文章を避ける」、「はっきり言い切る」、「事実と意見」、「まぎれのない文」、などなど。どれも重要です。11章の「スライド」の説明には時代を感じます。



窪園晴夫『新語はこうして作られる』（岩波書店）

大岡山：B1F-一般図書 814/Ku ※6月から貸出可になります

カレーコロッケとコロッケカレー、さてカレーライスの上にコロッケが乗せられて出されるものは、どちら？ またそれはなぜ？ 単語と単語の合成語を複合語と呼ぶが、なんでもかんでも自由なルールで複合語は作られるわけではない。そこにはとても緻密なルールがあるのだ。

黒田龍之助『外国語をはじめる前に』（ちくまプリマー新書）

大岡山：B1F-一般図書 801/Ku

すずかけ台：2F-一般図書 801/Ku

本書は、外国語を習得する楽しみや辛さを、言語学の知識を交えながらわかりやすく解説する。「『カッコイイ』ことは、外国語を学ぶ一番のモチベーション」、「辞書は服と同じで、成長に合わせて買い換える」など、眼から鱗の意見が次々と展開される。著者の主張には、語学が嫌いな人も好きな人も共感できるはず。

小林隆、澤村美幸『ものの言いかた西東』（岩波新書）

大岡山：B1F-一般図書 818/Ko

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/1496

すずかけ台：2F-一般図書 818/Ko

方言というと、何を思い浮かべるでしょうか。言葉の違い？ 音の高低？ 本書は「決まった言い方をするかしないか」「間接的に言うか直接的に言うか」といった言いかたの地域差に着目し、調査をまとめたものです。コミュニケーションが苦手だと感じている方にお薦めしたい一冊です。

五味康祐『柳生武芸帳』上・下巻（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2

すずかけ台：2F-一般図書 913.6/G/1, 913.6/G/2

昭和30年代、週刊誌に連載された時代活劇小説。最初は人物相関図を描きながら多彩な人物像とストーリー展開を楽しんでほしい。その上で、静と動、明暗と色彩、遠と近とを取り入れた視覚的な描写法、あるいは物語中の事物や制度についてのうんちく話の導入といった語り口にも気を向けていきたい。ただし、ところどころに濃い情景が現れる。その方面の描写が苦手ならばこの作品は避けたほうがよい。



オリヴァー・サックス『タングステンおじさん——化学と過ごした私の少年時代』 齊藤隆央訳（早川書房）

大岡山：B1F-一般図書 430/Sa

大岡山：B1F-一般図書 289.3/Sa

大岡山：B1F-文庫・新書 080/NF/472（ハヤカワ文庫）

映画「レナードの朝」の原作者として知られる脳神経科医の少年時代の回想録。タングステン電球の製造工場を営んでいた叔父たち（タングステンおじさん）に助けられて過ごした化学実験三昧の少年時代について。記述だけでも化学の面白さにわくわくする。

施 光恒『英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』（集英社新書）

大岡山：B1F-一般図書 830.4/Se

すずかけ台：2F-一般図書 830.4/Se

英語化するというのは日本にどのような変化をもたらすのか、専門分野を日本語で勉強できることがどれほど幸せなことなのか、日本語文化の意義を改めて問い直す「英語が苦手な東工大生」が理論武装するための必読の書。

多和田葉子『地球にちりばめられて』（講談社）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/Ta

すずかけ台：2F-一般図書 913.6/Ta

筆者はドイツ在住の日本人小説家で、日本語とドイツ語で作品を発表しています。本作は、留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko が、生き抜くため独自の言語「パンスカ」を作り出し、同じ母語を話す者を探しに旅をするという言語をめぐる小説です。言語や文化、人との出会いの面白さ、自分自身が話している言葉や暮らしている国についても考えさせられます。

チャールズ・R・ダーウィン『新訳 ビーグル号航海記』上・下巻 荒俣宏訳（平凡社）

大岡山：B1F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2

すずかけ台：2F-一般図書 402.9/D/1, 402.9/D/2

20代のダーウィンを世界的な科学者にした5年間にわたる世界一周航海の記録。帰国して8か月で書かれた初版には進化論的な内容はないが、8年後に書かれた第2版（翻訳もこちらの版から）にはすでに進化論的な記述がある。



広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険——子どもに学ぶことばの秘密』（岩波科学ライブラリー）

大岡山：B1F-一般図書 408/I/259

大岡山：B1F-一般図書 801.04/H

すずかけ台：2F-一般図書 408/I/259

著者は、子どもたちの言い間違いや疑問から、私たちが当たり前だと思って特に考えもしないような言語の性質を考察します。軽妙な語り口の本ですが、子どもたちの創造力と分析力に目をひられる一冊です。「は」のてんてんを、子供はどう発音するでしょう。

レイ・ブラッドベリ『華氏 451 度』伊藤典夫訳（ハヤカワ文庫 SF）

大岡山：B1F-一般図書 908.3/Se/B13（世界 SF 全集）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/B（ハヤカワ文庫 SF）

すずかけ台：2F-一般図書 933.7/B（ハヤカワ文庫 SF）

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933.7/B（ハヤカワ文庫 SF）

舞台は近未来、その社会では法律により読書が禁じられている。この社会では消防士(fireman)の仕事は火を消すことではなく、本を所持している者の住居を急襲し火炎放射器で本を燃やし尽くすことなのだ。主人公である消防士モンターグは毎日熱心に本を燃やす仕事に従事していながら、ある日たまたま一冊の本を手にしてしまう。だめだと思いつつ本を開いてみると…。なぜこの未来社会では本は燃やされなければならないのか、人は本を読むことでどのようにその精神を変容させていくのだろうか。読書が禁じられた未来社会についてのこの SF 小説を読むことで、僕たちは、ひとまずは自由に読書ができる自分たちの社会を新鮮な観点から眺め直すことができるだろう。フランソワ・トリュフォー監督による同名映画も必見に値する。

マーク・ピーターセン『日本人の英語』（岩波新書）

大岡山：B1F-文庫・新書 081/Id/18

大岡山：B1F-一般図書 835/P

すずかけ台：2F-一般図書 835/P

この本の著者は東工大での研究歴があります。書くための英語の本で、読みやすく、関係代名詞の使い方、冠詞の使い方などがとても役に立ちます。同じシリーズの『続 日本人の英語』（1990年）と『実践 日本人の英語』（2013年）もお薦めです。

イアン・マキューアン『贖罪』小山太一訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/M/1, 933.7/M/2 ※6月から貸出可になります

英国の現代作家マキューアンの傑作。悲恋の物語、戦争の物語としても十分おもしろく読めるのだが、なにより〈物語〉について、〈書く〉という行為について、深く考えさせる作品である。結末のどんでん返しにいたって、読者はまったく異なる視点から物語をふたたび辿りなおすことになるだろう。



マーク・C・ベイカー『言語のレシピ——多様性にひそむ普遍性をもとめて』 郡司隆男訳 (岩波現代文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 801/B

すずかけ台 : 2F-一般図書 801/B

著者はモホーク語などを研究する言語学者。本書は、生成文法において言語の多様性がどのようにとらえられるのかを紹介しています。限られた数のパラメーターでさまざまな言語の違いが説明できることにワクワクしてください。

松本修『全国アホ・バカ分布考——はるかなる言葉の旅路』 (新潮文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 810.2/M

すずかけ台 : 2F-一般図書 810.2/M

柳田国男の方言圏論は「かたつむり」が「でんでんむし」「マイマイ」「ツブリ」「ナメクジ」など日本列島を同心円上に分布することを説いたのであるが、この本は「アホ」は関西、「バカ」は関東、ではどこから「アホ」は「バカ」に変わるのか？ その境界線はどこに引けるのかを大まじめに説いた書である。

山久瀬洋二『言い返さない日本人』 (IBC パブリッシング)

大岡山 : B1F-一般図書 361.42/Y

大岡山 : B2F-語学・留学用資料 361.42/Y

すずかけ台 : 2F-語学・留学用資料 361.42/Y

This book may look like a simple and simplistic bi-lingual primer for businessmen about differences between practices and expectations in Japan and Euro-America, but it is a lot more than that. The author's explanations of culturally bewildering behaviour and attitudes are far from simplistic; they are given for the most part in considerable detail and express the culturally 'common-sense' understanding of situations from both Japanese and 'Western' perspectives. This book should be compulsory reading for anyone intending to be active in business and internationally-framed projects, for Japan and Japanese are almost always involved, so there is always potential for the sorts of misunderstandings analysed here. The parallel Eng-J text is very helpful for our 1st year students.



● 見て、感じて、創る——「想像力」って何？

伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

大岡山：B1F-一般図書 369.275/I

大岡山：B1F-「東工大先生の本」文庫 369.275/I

すずかけ台：2F-「東工大先生の本」文庫 369.275/I

視覚障害者がどのように世界を認識しているのか、インタビューをもとに構成した身体論。障害者とは、健常者が使っている能力を使わず、健常者が使っていない能力を使っている人。耳や手で「見る」彼らのやり方を知ることで、世界の全く別の顔が見えてくる。

井上章一『つくられた桂離宮神話』（講談社学術文庫）

大岡山：B1F-一般図書 521.5/I

すずかけ台：2F-一般図書 521.5/I

ドイツ人建築家ブルーノ・タウトによって「発見」されて以来、「日本美」の象徴となった桂離宮。本書ではその「神話」を作り上げた歴史的、社会的仕組みを、膨大な資料を駆使して解体して見せます。「固定観念」に懐疑の念を抱くことの大切さを教えてくれる一冊です。

岩波書店編集部編『カラー版 本ができるまで』（岩波ジュニア新書）

大岡山：B1F-一般図書 022/I

すずかけ台：2F-一般図書 022/I

本とは収められたコンテンツだけでなく、印刷された紙を束ねたモノとしても存在している。本書では、技術的な視点からグーテンベルク以来の本作りの歴史とともに、現代において本がどのように出来上がるかが概観される。紙とインクなどの素材が組版、印刷、製本といった作業をへて形をなしていくようすを知ることで、本に対する新たな視点が得られるだろう。

志村ふくみ『語りかける花』（ちくま文庫）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/Si

すずかけ台：2F-一般図書 914.6/Si

あえて著者の作品のなかで、一冊を選べと言われたら、この著作を挙げる。染織家としてだけでなく、文章家として、また、一個の求道者としての彼女の精神が、鮮烈に、また熱情的に示されている。現代日本における随想の極みを指し示す一冊。



高根正昭『創造の方法学』（講談社現代新書）

大岡山：B1F-一般図書 301.6/Ta

すずかけ台：2F-一般図書 301.6/Ta

知的生産のために必要な科学的な方法論を、筆者の留学時代の体験談なども交えながら解説している方法論を概観した入門書です。

Chim ↑ Pom『芸術実行犯』（朝日出版社）

大岡山：B1F-一般図書 704/C

すずかけ台：2F-一般図書 704/C

一見チャラそうなルックスでありながら、被爆やフクシマの問題に真っ正面からぶつかってきたアーティスト集団 chim ↑ pom。自身の活動について等身大の言葉で語りながら、社会のさまざまなタブーに切り込む。難解なアートがとっても身近に見えてくる本。

フィリップ・K・ディック『パーマー・エルドリッチの三つの聖痕』浅倉久志訳（ハヤカワ文庫）

大岡山：B1F-一般図書 933.7/D

すずかけ台：2F-一般図書 933.7/D

「哲学」は分析し過ぎると対象を破壊し尽し、分裂と孤立と不安を生み、逆に「宗教」は理性の及ばない全体性をもって、人間の深い根この存在を抑えてしまう。こう考えて悩む人々にとり、「哲学」と「宗教」の「間」には、それらを媒介する決定的な何かがある筈だ。古典古代においてはそれはストア主義であったし、現代においてはそれに替わるものは精神分析あるいはSFであろう。このドラッグ小説は生まれてこのかた数十回は読んでいて、そのたびに圧倒され、自分の存在を根底から揺り動かされてしまう。（ついで、いつもこれが映画化されていない理由を考える。というのも、知り合いの高名な大学教授は、私の知る限り、『ブレードランナー』を36回見ていて、「36回目に初めて、あるシーンの背景に小さく映った絵が神護寺仙洞院の伝源頼朝像だと気付いた」、と言っていたからだ。）

原研哉『デザインのデザイン』（岩波書店）

大岡山：B1F-一般図書 757.04/H

すずかけ台：2F-一般図書 757.04/H

無印良品や長野オリンピック、銀座松屋のイノベーションなどに関わってきた著者が実体験を元に語るデザイン論。素材の性質や機能を検討し、あたりまえのことを疑い、社会とのつながりを考慮する。デザインの発想はあらゆる学問や物作りのヒントになるはずです。



岡壇『生き心地の良い町』（講談社）

大岡山：B1F-一般図書 368.3/O

すずかけ台：2F-一般図書 368.3/O

生き心地の良い町の特徴はどのようなものだろうか。本書は、日本でもっとも自殺の少ない町に着目し、町の歴史から地理的特性、そして住民気質についてインタビューや統計データに基づいて分析した成果をまとめたものである。「生き心地の良い」社会のあり方を考えるきっかけとなるばかりでなく、仮説のたて方から、それを実証していく研究プロセスそのものも興味深い。

東田直樹『跳びはねる思考』（イースト・プレス）

大岡山：B1F-一般図書 914.6/H

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：和書 914.6/H

This is a set of short essays and interviews with a young man who suffers severe autism but now is known throughout Japan for his writings, and who has also recently become known in Europe and the USA through the enormous success of a translated volume. The essays give insight into not only the subjective world of a “disabled” person, but also contain many ideas and observations about human society and life that are of relevance for all readers. It is well known that there are students at Titech with Asperger’s syndrome and even borderline autism spectrum disorders. Reading this short work would be of considerable value for all our students, enriching their knowledge of the range of human experience but also deepening their capacity for compassion.

ヘルダー『彫塑』（『世界の名著 続7』所収 中央公論社）

大岡山：B1F-一般図書 080/Se/73 ※6月から貸出可になります

人でも建物でも、形あるものを夢中で眺めたり作ったりしたことのある人は、その体験の奥行を著者と語り合ってみよう。物が単なる物以上になる秘密。この本を単純に面白いと思えたら、哲学の大きな流れに立っている。

和辻哲郎『古寺巡礼』（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 702.1/W（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 121.6/W/2（和辻哲郎全集）

大岡山：B1F-一般図書 918.6/H/35（ふるさと文学館）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ia/144（岩波文庫）

すずかけ台：2F-一般図書 702.1/W（岩波文庫）

和辻哲郎は哲学者。本書は、彼が20代ごろ、友人とともに奈良付近の古寺を見物したときの印象記だ。著者自身が言うように、「古美術の研究は自分にはわき道」なのだが、その「わき道」の幅の広さに驚嘆させられる。



●生きて、愛して、旅をする——「人生」って何？

緒方貞子『共に生きるということ be humane』(PHP 研究所)

大岡山 : B1F-一般図書 289.1/O

すずかけ台 : 2F-一般図書 289.1/O

上智大学教授、国連難民高等弁務官、国際協力機構 (JICA) 理事長などを歴任した筆者は 1927 年生まれ。自身の半生、仕事における信念、国際社会の中での日本の役割などを語っています。東工大においても国際人材育成が叫ばれる中、「国際化って何だろう」「国際社会で仕事をするとは」と考える手がかりになればと思います。

神谷美恵子『生きがいについて』(みすず書房)

大岡山 : B1F-一般図書 113/Ka

大岡山 : B1F-一般図書 113/Ka (神谷美恵子コレクション)

すずかけ台 : 2F-一般図書 113/Ka (神谷美恵子コレクション)

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 和書 113/Ka (神谷美恵子コレクション)

二十世紀の日本で書かれた、もっとも優れた思想書の一つではないだろうか。「生きがい」とは生きる意味だといってもよいが、それをもっともたしかに照らし出すのは、かなしみである、と著者は言う。優れた知性の持ち主が、頭だけでなく、全身全霊を注いで書かれた、文字通りの名著。

W・T・ガルウェイ、E・ハンゼリック、J・ホートン『インナーゲームオブストレス：内面の障害に打ち勝つ!』姉齒康訳、後藤新弥監修 (日刊スポーツ出版社)

大岡山 : B1F-一般図書 498.39/G

すずかけ台 : 2F-一般図書 498.39/G

W. Timothy Gallwey with Edd Hanzelik and John Horton, *The Inner Game of Stress: Outsmart Life's Challenges and Fulfill Your Potential*, New York, Random House, 2009.

1974 年に出版されて以来、同著者の『心で勝つ! インナーゲーム』は様々な分野で最高峰を目指す人たちに愛読されてきた。『インナーゲーム』の理念に 2 人の医師の知識を加えた本で、ストレスに負けない技術を教えてくれる。

セルジュ・ティスロン『レジリエンス——こころの回復とはなにか』阿部又一郎訳 (文庫クセジュ、白水社)

大岡山 : B1F-一般図書 146.2/Ti

すずかけ台 : 2F-一般図書 146.2/Ti

昨今、困難な状況をのり越え、不都合な環境のなかで自らを構築し続ける能力であるレジリエンスという概念が様々な領域で注目されています。本書ではレジリエンス研究の歴史をふり返り、この言葉の定義や使用法をめぐるさまざまな相違点について知ることができます。



ボブ・ディラン『ボブ・ディラン自伝』菅野ヘッケル訳 (SB クリエイティブ)

大岡山 : B1F-一般図書 767.8/D

すずかけ台 : 2F-一般図書 767.8/D

ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したのは、彼の書く歌詞が文学的だったからではない。フォークからロックへ、カントリーからゴスペルへ、更にご数年はスタンダード・ナンバーを歌ってみたりと、常に表現者としての自らを更新し、再生し続けるその生き様、人生そのものが全ての芸術家の導きとなるような存在なのだ。

高野和明『幽霊人命救助隊』(文春文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/Ta

すずかけ台 : 2F-一般図書 913.6/Ta

自殺を題材にした小説で、自殺して幽霊となった4人の主人公が今まさに自殺しようと悩んでいる人を助けるというストーリーだ。生きることは今悩んでいることよりもずっと大切なことと思知らされる。

辻邦生『生きて愛するために』(中公文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 914.6/Tu

すずかけ台 : 2F-一般図書 914.6/Tu

著者は、大病を経たことにより、それまでのロマン派的感性を克服し、地上に存在する森羅万象と積極的に交流し、一体化することによって、生きる喜びを十全に享受すべきだと自らの経験を例に読者に自覚を促す。そして具体的な生の素晴らしさ=奇跡を語る様々なエッセーを通して、死という虚無に囲まれた、ただ一回限りの地上の生を本気で生きるべきだという覚悟を、達意の文で優しく穏やかに主張する。最終章の三つの啓示は、特に印象深い。

灰谷健次郎『天の瞳』(角川文庫)

大岡山 : B1F-一般図書 913.6/H/1a~913.6/H/5 ※6月から貸出可になります

主人公の倫太郎が幼少期から成長する姿を色々な人との関わりを通して描かれている。人との関わりの中で成長すること、人との繋がりの大切さを実感する。連作ものだが、是非読んで欲しい。



チャック・パラニューク『ファイト・クラブ』(Fight Club) 池田真紀子訳 (ハヤカワ文庫 NV)

大岡山 : B1F-一般図書 933.7/P

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 文庫・新書 933.7/P

それなりに大人になり、仕事だって持っている不自由しない生活を送っている。でも、どうにも生きているという実感が湧かないのはなぜだろう？現代人が生きているという実感を本当に得たければ、渴望しているならば、「ファイト」だけが己を救う道だ。本書『ファイト・クラブ』は、そしてタイラー・ダーデンはそう僕達に語りかける。「怖じ気づいてどん底まで落ちられないなら」と前置きし、「そいつは絶対に真の成功を手にはできない」(p.97)と断じるタイラーの思想はセクシーだがギラギラした危険に満ちている。そして、全ての参加者が夜を徹して対等に素手で殴りあう闇のクラブが設立された時、自分も社会も心地よく崩壊し始めるのだ。自分を規定しようとする世界の枠組みに疑問を持っている人、自分の不器用さに自己嫌悪を感じている人にこそ、原作小説・映画版ともにお薦めしたい。鬼オデヴィッド・フィンチャー監督による同名タイトルの映画版はめくるめく映像と思想の洪水を伴い、常に僕らに獐猛なファイトをしかけてくる。

平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書)

大岡山 : B1F-一般図書 361.45/H

すずかけ台 : 1F-ペリパトス文庫 : 文庫・新書 361.4/H

コミュ障、人見知り、口下手……。色々な表現があるものの、他人との対面での会話が苦手だと思っている人は案外多い。演劇を専門とする著者が、様々な切り口から人と人との相互のやり取りについて掘り下げてくれる。

ジェイムズ・ヒルマン『魂のコード——心のとびらをひらく』鏡リュウジ訳 (河出書房新社)

大岡山 : B1F-一般図書 146.1/H

すずかけ台 : 2F-一般図書 146.1/H

James Hillman, *The Soul's Code: In Search of Character and Calling*, New York, Grand Central Publishing, 1996.

ユング派心理学の立場からガンディーやヒトラーなど過去の有名な人物の人格を分析しながら、我々にも偉大な可能性を秘めている「どんぐり」が生まれつきあると主張する。環境にも遺伝にも定められない自分を見つけられるかも知れない。



ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』高橋健二訳（新潮文庫）

大岡山：B1F-文庫・新書 080/Ie/435（岩波文庫）

大岡山：B1F-一般図書 943.7/H（新潮文庫）

大岡山：B1F-リベラルアーツ資料 943.7/H（新潮文庫）

大岡山：B1F-一般図書 948.78/H/12（ヘルマン・ヘッセ全集）

すずかけ台：2F-リベラルアーツ資料 943.7/H（新潮文庫）

すずかけ台：2F-一般図書 908/Ti/A62（筑摩世界文學大系）

厳しい修行に精進し、悟りを得ようとした主人公が、結局そのモノローグ的限界を知り、むしろ自らの狭隘な自我＝小我の殻を破碎・放下し、瞬間、瞬間新たに生成する開かれた世界をあるがままに受容することを認識し、自己を解放・再生するプロセスが凝縮して語られる。最後の、生命の音楽である、せせらぎによる千の声＝宇宙に遍満する無限のコトバを、ポリフォニー的に響かせる川との交感シーンが圧巻。

星野道夫『旅をする木』（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 295.3/H

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 295.3/H

写真家、探検家でもある著者が、アラスカの自然、動物、出逢った人々について静かで温かな言葉で綴った33篇のエッセー集。生命に対する優しく澄んだ深い眼差しと、自身の生き方への思いが随所にちりばめられている。

美馬のゆり『理系女子的生き方のススメ』（岩波ジュニア新書）

大岡山：B1F-一般図書 407/M

すずかけ台：2F-一般図書 407/M

タイトルの「理系女子的」は「リケジョ的」と読みます。「的」がついているのがミソで、これは理系女子だけに向けた本ではありません。「リケジョ的生き方」とは、「自分のやりたいことを見つけ、まわりを巻き込みながら、楽しく生きる生き方」のことであり、男女問いません。好奇心をもって「何か変だな、不思議だな」と感じ、「なぜ？ どうして？」を論理的・分析的に考え、まわりを巻き込みながら「じゃあ、それ、変えてみよう」と行動する。そのような著者の生き方をおして、これからの大学生活にパワーをくれる一冊です。女子学生はもちろん男子学生にもおすすめします。

宮本輝『青が散る』（文春文庫）

大岡山：B1F-一般図書 913.6/M/1, 913.6/M/2

すずかけ台：仮設分館 913.6/M/1, 913.6/M/2

主人公が大学時代にテニスに打ち込む姿を描いた青春小説だ。学生時代の恋や友情なども盛り込み青春時代の色々な迷いや想いが描かれている。ひとつのことに打ち込むことの素晴らしさを感じることができる。

オスカー・ワイルドほか『ゲイ短編小説集』（平凡社ライブラリー）

大岡山：B1F-一般図書 933.78/G

大岡山：B1F-文庫・新書 080/H/315

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 933/W

男性同性愛を題材としたイギリス短編小説のアンソロジー。と言っても、明確に男性同士の性愛が描かれた作品ばかりが収められているわけではない。どれか一篇を読んだ後、監訳者の大橋洋一の解説に目を通して見てほしい。目から鱗が落ちるような体験ができる。同じく平凡社ライブラリーに入っている『レズビアン短編小説集』、『クィア短編小説集』もお薦め。

Albom, Mitch, *Tuesdays with Morrie: An Old Man, a Young Man, and Life's Greatest Lesson*. New York: Anchor Books. 1997.

大岡山：B1F-一般図書 837.7/A

すずかけ台：1F-ペリパトス文庫：文庫・新書 837.7/A

Mitch Albom reconnected with his sociology professor Morris (Morrie) Schwartz after seeing him on the television program "Nightline" with Ted Koppel. After learning that Morrie was dying of Amyotrophic Lateral Sclerosis (ALS), Mitch met with Morrie every Tuesday, just as he did when he was a student at Brandeis University. However, this time, Mitch traveled from Michigan to Morrie's house in Massachusetts for a course on "The Meaning of Life." This book recounts their discussions on topics such as love, fear, family, forgiveness, community, and most importantly, death. Morrie, the "Coach," imparted knowledge and wisdom to his student and friend, Mitch: Life boils down to loving each other, engaging in one's community, and living for a purpose. Fame, work, and money are secondary to the vital aspects of life. May we find truth in Morrie's words.

Fritz, Mark, *The Truth About Getting More Done*. Upper Saddle River, New Jersey: FT Press, 2009.

大岡山：B1F-一般図書 159.4/F

すずかけ台：2F-一般図書 159.4/F

There's always so much to do and not enough time! How can we get more done within the allocated timeframe? Do we need to manage our time better? How do we cut out extraneous activities? The author outlines 42 "truths" on how to have a more efficient and effective life, giving us insight into what and where to focus our energy. In short, Mark Fritz tells us to define what success means to us in order to attain a life that we want, creating a visible path for it. Then, believe that you can achieve it.



● 電子ブック・関連図書

夏目金之助『漱石全集』

電子ブック : <https://kinoden.kinokuniya.co.jp/tokyotech/bookdetail/p/KP00013610>

長谷部恭男『Interactive 憲法』

電子ブック : <https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000007991>

山久瀬洋二『言い返さない日本人』

電子ブック : <https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000033635>

オスカー・ワイルドほか『ゲイ短編小説集』

電子ブック : <https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000024210>

Ray Bradbury, *Fahrenheit 451; introduction by Neil Gaiman*. [Ann Arbor, Mich.] : ProQuest Ebook Central, [20--].

電子ブック : <https://ebookcentral.proquest.com/lib/tokyotech/detail.action?docID=4934588>
全文 PDF のダウンロード等にはアカウントの作成が必要です。

Charles Homer Haskins, *The rise of universities; with a new introduction by Lionel S. Lewis*. [Ann Arbor, Mich.] : ProQuest Ebook Central, [20--] .

電子ブック : <https://ebookcentral.proquest.com/lib/tokyotech/detail.action?docID=4980168>
全文 PDF のダウンロード等にはアカウントの作成が必要です。

Kaiser Fung, *Numbers rule your world : the hidden influence of probability and statistics on everything you do*. [Ann Arbor, Mich.]: ProQuest Ebook Central, [20--].

電子ブック : <https://ebookcentral.proquest.com/lib/tokyotech/detail.action?docID=6258960>
全文 PDF のダウンロード等にはアカウントの作成が必要です。

Franz Kafka, *Die Verwandlung*. Warschau: Ktoczyta.pl, 2017, c2018.

電子ブック : <https://ebookcentral.proquest.com/lib/tokyotech/detail.action?docID=5406846>
全文 PDF のダウンロード等にはアカウントの作成が必要です。

電子ブックは学内ネットワークからのみアクセス可能です。SSL-VPN 経由で学外からアクセスすることも可能です。

SSL-VPN: <https://portal.titech.ac.jp/ezguide/sslvpn.html>

